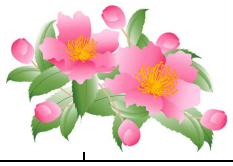
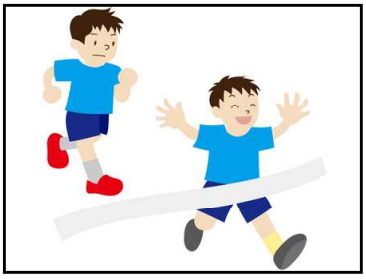
みなとのたより

らしく



湊小学校通信
Ｒ４．１１．２１
ＮＯ．８
文責：音喜多・権代

湊魂で走った！校内マラソン大会



先日校内マラソン大会を無事終えることができました。応援に来たり、ご家庭で励ましていただいたりした皆様に感謝申し上げます。大会では、子どもたちが、最後まであきらめずにゴール目指して走り切りました。朝のポプラマラソンが始まったころは、子どもたちの走りや心に勢いがあまり感じられない日もありましたが、続けているうちに走る子どもたちの目からやる気や元気が感じられ、いきいきと走る子どもたちが多くみられるようになり、走の持久力とともに心の成長も見られました。『積み重ね』による成果がまたひとつ子どもたちの自信となり、スモールステップで次への成長へとつなげていくよう取り組んでまいります。

読書で心と頭を耕しましょう～エルマーのぼうけん

今ではスマホ一つで世の中の出来事を知ることができます。学校でもコンピュータを学習活動に取り入れることが当たり前の時代になりました。一方で新聞を読むことでも情報を得ることができますが、秒・分単位で変わる情報までを知ることができません。しかし、因果関係や物事の深い部分に向き合ってじっくりと考えたり、思いを広げたりできる良さがあります。

学習活動では、情報収集し、分析・考察し、意見交換し、判断しながら知識を身に付けていく学びの過程があります。情報から得た浅い知識を基に、「思考力」を生かしたより深い学びを通して得られる知識が求められています。

この「思考力」は、子どもたちが社会でよりよく生きていく上でとても大事な力となるものです。読書は、この「思考力」を育てるのにもってこいの習慣です。

私は小学生１年生の誕生日に「エルマーのぼうけん」という本を親からプレゼントしてもらいました。おもちゃではない、本の贈り物に少々というか大分がっくりきましたが、本の表紙にはジャングルの中、エルマーとリボンを付けて澄ましたライオンがついています。裏表紙には冒険地図が載ってあり興味を惹かれました。あらすじをざっというと、主人公のエルマーという子どもが、年老いた猫に出会い、どうぶつ島に囚われているりゅうの子どものことを知り、助け出そうと冒険に出かけます。エルマーはリュックにチューインガムや棒付きキャンディー等、一見冒険にはふさわしくない道具を入れて出発します。そしてりゅうを助け出すために知恵と勇気を働かせ、この持ち物を使いながら、動物たちをやり込めていくという内容です。子どもの私を強く引き付けたのは、まず、背表紙にも載っていたりゅうに乗って空を飛んでいるエルマーの絵です。当時は、特撮番組がはやり、怪獣が大好きだったからだと思います。次に話の中に出てくるみかん島で食べたみかんや棒付きのキャンディー等の食べ物です。ミカンの甘酸っぱい香りやキャンディーのあま～い味がじわ～っと浮かび、無性に食欲がわいてくるのでした。三つ目は、ライオンやワニ等の恐ろしい猛獣や動物たちから逃れ、りゅうの背中に乗って飛び立つシーンです。エルマーになりきって一緒にどきどきしたり、考えたり、危険を乗り越え、ついにりゅうを助けて喜んだりと物語の中に引き込まれて夢中で読んだことを今でも覚えています。

このように本は、読者の心を引き込み、癒しや、感動といった感受性を高め、想像力を掻き立て、自分自身と対話しながら考える「思考力」を育ててくれるのです。

まずは、いい本に出会い読書好きな子どもになるように、この読書月間に、ぜひ「家読書」をおすすめします。

ちなみに、小１で私の中の読書ブームが去り、三年生ぐらいになった時に、図書室でエルマーの続編「エルマーとりゅう」「エルマーと十六匹のりゅう」を発見しました。大きな衝撃と感激を受け、当然のように読書ブームが再燃、その後も没頭していきました。後に教師になり、国語の教科書でエルマーに再会し、またまたびっくりでした。